

「中之島分館」のころ

－ 『NAKATO NEWS』の記事を中心に－

土出 郁子

大阪大学附属図書館

『NAKATO NEWS』は「中図ニュース」の意で、「中」は「中之島」の「中」をさす。かつて大阪大学医学部は現在の場所（吹田市）でなく、大阪市の中心、中之島に長くあった。「大阪大学附属図書館中之島分館」は1960（昭和35）年から1992（平成4）年までの医学系図書館の呼称であり、今日の「生命科学図書館」の基礎を作ったといえる。

1970年代中頃からの学術情報政策方針により、大学図書館は、学術一次情報としての雑誌、とくに外国雑誌を重点的に収集し国内の利用に供することとなった¹。この収集は地域および全国の大学図書館間での共同利用を前提としており、「医学・生物学系」、「理工学系」、「農学系」の3分野（後に「人文・社会学系」を加えた4分野）ごとに拠点図書館（現：外国雑誌センター館）が指定された。拠点図書館は1977（昭和52）年から予算措置を受け、国内未購入の学術雑誌タイトルを中心に収集をおこなった²。中之島分館は当初より「医学・生物学系」の拠点図書館に指定され、現在も雑誌の収集と提供に努めている。

本発表では、1966（昭和41）年から1983（昭和58）年まで発行されていた『NAKATO NEWS』を中心に、当時の館内サービスおよび外国雑誌センター館としての活動について述べる。

¹ 浅野次郎. 外国雑誌センター館の現況. 現代の図書館. 1982;20(3-4):186-192.、外国雑誌センター館ホームページ. <<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ncop/>>、ほか。

² 中之島分館における初期のセンター館活動については、松浦正、茂幾周治、尾崎一雄. 医学・生物学系拠点図書館の一時資料収集について:大阪大学附属図書館中之島分館における4年間の経過、現状および今後の課題. 大学図書館研究. 1980;17:76-86. に詳しい。